

		NPO法人 赤煉瓦倶楽部舞鶴 会 報	
		編集・発行人／ 馬 場 英 男	
		(連絡先) 〒625-0062	
		京都府舞鶴市森 875-2	
		TEL/090-3281-7539 FAX/0773-63-9764	
		E-mail brick@iris.eonet.ne.jp	
特定非営利活動法人 赤煉瓦倶楽部舞鶴			
会報 114号 令和3年3月31日			
「NPO法人赤煉瓦倶楽部舞鶴」ホームページ		http://www.redbrick.jp/ しばらく運営します	

今号は、NPO法人最後の会報です。今後は、任意団体「赤煉瓦倶楽部舞鶴」で発行します。

編集に当たって

当 NPO 法人は、本日付で解散します。今号では、当倶楽部の現理事 9 名がこれまでの運営を振り返り感謝を込めて執筆しました。今後は、早期に総会を開催し新組織の会則を定め、役員を選任し引き続き活動を継続いたしますので、皆様には従前どおりのご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。(馬場英男)

1. 「NPO 法人の運営を振り返り」

(9名の理事から)

「多くの人に支えられ目標達成！」

「赤煉瓦を活かしたまちづくり」活動も 33 年目を迎えるが、ざっと振り返ってみます。

1988年8月「舞鶴市まちづくり推進調査研究会」が発足し参加。1989年3月に「横浜まちづくり研究会」を訪問し横浜赤レンガ倉庫見学。1990年4月「まいづる建築探偵団」結成 市内赤煉瓦建造物調査開始、10月横浜まち研ら8名が来訪し赤煉瓦倉庫見学・「神崎ホフマン式輪窯」確認、11月「第1回赤煉瓦シンポジウム in 舞鶴」企画開催。1991年6月「赤煉瓦倶楽部・舞鶴」結成、8月「舞鶴赤煉瓦ジャズ祭」開始(以降20回開催)、10月「赤煉瓦ネットワーク」横浜で設立総会(以降毎年全国各地で総会・見学会開催中)。1993年11月「赤れんが博物館」が、1994年10月「舞鶴市政記念館」がオープン。2000年8月NPO法人化。2006年4月市政記念館の指定管理業務受託(以降6年間管理)。2007年4月「まいづる智恵蔵」オープン。2008年6月赤煉瓦倉庫8棟が国重要文化財指定。2012年5月「舞鶴赤れんがパーク」グランドオープン。2016年4月文化庁「日本遺産」認定、12月「日本イコモス賞2016」受賞。2017年12月「日本の20世紀遺産20選」選定。現在に至る。



《赤煉瓦ジャズ祭 2000》

理事長 馬場英男

このような市民組織と行政との協働による偉業達成には、当時横浜市職員の内藤恒平さん、仲原正治さんから横浜まち研との稀有な出会い無しに語れず、また、西村幸夫先生、水野信太郎先生、日向進先生等の学術的支援、ジャズ祭の立役者・世界的ジャズピアニスト山下洋輔さん、全国のネットワーク会員による応援、当法人の役員・会員の熱意によるものであったと確信しています。縁ありお世話になった多くの皆様に感謝申し上げます。



《舞鶴大会 2000 にて佐世保に横断幕を引き継ぐ》

この機会に、当法人の運営に多大なご貢献を頂きながら残念にも鬼籍に入られた恩人・友人を紹介しご冥福をお祈りいたします。

当 NPO 法人では、理事として運営をリードした北村利一(没年 2001)・森口清滋(2015)・大滝紀夫(2017)・鷺田龍作(2019)・世良孝(2019)が鬼籍に。

また、「赤煉瓦の街・舞鶴」への計画策定・整備・支援・協力などに貢献された渡邊彌蔵(2003)・前久夫(2004)・町井正登(2005)・佐藤啓子(2007)・麦屋弥生(2008)・佐谷和彦(2008)・北沢猛(2009)・田村明(2010)・有本嘉兵衛(2011)・山根由一(2016)が鬼籍に入られました。故人には改めて心からの感謝を申し上げます。(敬称略)

「 倶楽部の役割は続くよ どこまでも 」

30数年前、赤煉瓦倉庫のライトアップに参加したことから舞鶴の赤煉瓦との関係が始まりました。生まれ育った舞鶴と何か関わることができないものかと高校卒業以来ねがっていたので、飛び込んだのです。そして、馬場さんがたいへんなジャズ・フリークだとは露知らずに、赤煉瓦+海+夏=ジャズライブ！という公式がひらめいたのですが、以後の展開はみなさんご存知の通り。

副 理 事 長 日 向 進

倶楽部の活動を通じていろいろと体験させていただいてきたことから、石が玉になり、足元にこそこんこんと湧き出る泉があるのだということを実感しています。一方、残念なこともありました。高野川河口に架かっていた可動橋や旧舞鶴税務署（舞鶴西商工会館）が失われたことなどです。

倶楽部の役割は続くよどこまでもですね。

「 NPO法人運営に携わって 」

平成10年6月に関電舞鶴（営）地域共生業務に配属され舞鶴市との係わりとして赤煉瓦ジャズ実行委員会に参加し13年間野外ジャズ開催に向けて色々とし事を楽しみました。その後NPO法人赤煉瓦倶楽部舞鶴が法人化され平成15年より理事、平成23年から副理事長に選任され活動してきました。その間には赤煉瓦施設指定管理業務（3年間）、平成11年冬にはアメリカ合衆国ニューオリンズ市、サンフランシスコ市等を訪問し赤煉瓦建築物の美しい街並みを見学し本場のジャズを聴いてきました。又、ニューオリンズ旧市街地フレンチ・クォーターで使われていた赤煉瓦を持ち帰り赤れんが博物館に展示することができました。

平成15年11月には黒部ダム、トンネル（破砕帯）地下水力発電所、インクラインの見学をしました。平成18年6月にはサッカーワールドカップ（W杯）のオーストラリア戦とクロアチア戦を市政記念館ホールの大スクリーンを使って日本代表の応援を市民と一緒にイベント開催しました。平成28年10

副 理 事 長 梅 本 徳 夫

月には赤煉瓦に触れる7日間の旅をハンブルグ、ロストック、ベルリンなどを訪問しドイツのホフマン窯で煉瓦製造の様子等を見学しました。



ドイツ ホフマン窯「ルッシュ・クリンカー工業」

赤煉瓦に関わる外国旅行は二度目の経験であり、文化、国柄等の違いを強く感じました。

今後は私の残り人生を赤煉瓦倶楽部での経験等を活かして人との係わりを大切にして楽しみます。

「 赤煉瓦歴30年、今後も・・・ 」

平成2年の春、馬場さんから「まいづる建築探偵団」に誘われて、私と赤煉瓦の関係がはじまりました。週末毎に赤煉瓦を求め市内を探索し、その秋には赤煉瓦シンポジウム、翌年には赤煉瓦倶楽部発足、赤煉瓦ジャズ祭開催と赤煉瓦の活動に熱中した日々が本当に懐かしく、赤煉瓦倉庫群がライトアップされた中、アンコールで観衆が総立ちとなったジャズ祭に興奮したことを今でもよく覚えています。

また、平成12年に神崎ホフマン窯の所有会社が倒産したことにより競売の危機に直面し、当倶楽部の存

理 事 石 原 雅 章

在意義が問われる中、全国からの応援メッセージの募集や神崎ホフマン窯の冊子作成、保存基金の創設など活動を展開したことも強く記憶に残っています。

今、赤煉瓦は舞鶴の顔に成長しましたが、この30年間ここに至るまで活動を支えていただいた倶楽部並びに赤煉瓦ネットワークの皆さんに心から感謝いたします。

私も還暦を過ぎ、理事メンバーも多くが70歳を超える状況ですが、あと少し赤煉瓦を楽しんでいきたいと思えます。



1993年ジャズ祭会場にて



ホフマン窯保存のためのパンフ、冊子

「新参者として有り難い体験」

遅まきながら 10 年ほど前から理事にさせていただき、大変貴重な体験を得て感謝しています。まずは、各地の視察に参加・計画させていただく機会が多く、個人で動くよりはるかに深く広く煉瓦建築の文化財に触れることができました。やはり、視察交渉の段階で「NPO法人赤煉瓦倶楽部舞鶴」という看板と既に築

「33年間のまちづくり」

まちづくりに携わって 33 年。1988（昭和 63）年 8 月「舞鶴市まちづくり推進調査研究会」が発足し参加、研究内容は城下町西舞鶴地区の魅力の醸成であり、「田辺城城門再建」など一定の提言を行い実現することとなった。

他のメンバーは、東舞鶴地区に点在する海軍ゆかりの赤煉瓦建造物の活用方を研究。

1991（平成 3）年 6 月「赤煉瓦倶楽部・舞鶴」が発足し会員に、1991（平成 3）年から 2010（平成 22）年まで 20 回にわたる赤煉瓦倉庫群を舞台にした夏恒例の野外ジャズライブ「赤煉瓦ジャズ祭」を開催。

「赤れんが建造物の保存に多大な貢献」

当初、仮設投光器による 1 棟のライトアップに始まった北吸赤れんが倉庫群。今では 8 棟が国重要文化財に指定され、年間約 80 万人が訪れる赤れんがパークとしてよみがえり、北部有数の観光スポットになりました。全国に 4 基のみ残るホフマン式輪窯のひとつ神崎ホフマン窯は、国の登録有形文化財となった喜びもつかの間、所有会社が倒産して競売へ。全国へ呼びかけた窯の保存運動が契機となり、新所有者の英断による多額の修理費用負担、そして文化庁をはじめ行政の支援により、覆屋と窯本体の保存修理が行われ、貴重

理事 小野 章

な窯が守られて危機は去りました。訪れた誰もが驚く旧北吸浄水場配水池跡の重厚な煉瓦導水壁と石壁に囲まれた地下空間。その公開に取り組んだのも当法人です。また、仲間や市民と共に訪れた市内外の赤煉瓦建造物調査や視察は有意義で楽しいものでした。この 30 年余に及ぶ赤煉瓦倶楽部の活動は、市民と行政が、お互いの役割を意識しながら、手探りで歩んだ「赤煉瓦のまちづくり道」だったのではないのでしょうか。

「舞鶴赤煉瓦ジャズ祭実行委員会」運営スタッフとしてボランティア活動に参加。

2000（平成 12）年 8 月「特定非営利活動法人（NPO）法人赤煉瓦倶楽部舞鶴」が京都府より認証、理事に就任。ボランティアをはじめとする社会貢献活動を行う中、多くの人と繋がりあえ社会的信用も高まり大変有意義であった。

2021（令和 3）年 3 月をもって法人格は失効するが、「赤煉瓦倶楽部舞鶴」として個性豊かな魅力ある赤煉瓦を活かしたまちづくりを進めるため邁進したいと考えている。

理事 吉岡 博之

今後も「赤煉瓦倶楽部舞鶴」というかけがえのないタカラモノを大切にしていきたいと思えます。

「赤煉瓦の絆で生まれた繋がり」

現在、全国から訪れる方々を迎える舞鶴の観光ポイントとなった赤煉瓦パーク。

子供の頃は、高い塀の向こうの決して中に入れそうになかった赤煉瓦倉庫群だったことに思いを馳せると、なんだか不思議な感じがします。

赤煉瓦ジャズ祭、赤煉瓦ミュージアム、赤煉瓦ライトアート、各地の煉瓦の歴史をたどった見学会、その場に一緒にいて下さった一人ひとり・赤煉瓦の許で生

「古レールが繋いだ街づくりの思い出」

かつては軍人輸送や引揚げ輸送と多くの軍需工場の側線など鉄道の要衝であった舞鶴の鉄道を再発見し趣味の域を広げようと05年に私が退職して間もなく設立した「北近畿鉄道友の会」が活動アイテムを模索していた。

06年三越大阪店の解体工事現場で多量の鉄骨の中から阪鶴鉄道などのカーネギー社製線路が見つかり鉄道友の会が譲り受けたものを近代化遺産として収集している赤煉瓦博物館に寄贈、同年の赤れんがフェスタのイベントで披露し同時に「舞鶴の鉄道再発見」の展示会を実施した。

理事 隅垣とし子

まれた繋がりと思い出はつきません。思いがけずもう会えなくなってしまった人も、記憶の中で笑顔です。

少し寂しいけれど、NPO法人としての倶楽部の活動を終える時を迎えることとなりました。

温かくご支援いただいた皆様へ、心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

理事 嵯峨根 八郎

倶楽部が06年「市政記念館」翌年には「まいづる智恵蔵」が市の指定管理を受けたのを機会にさらに倶楽部の目的である「赤煉瓦を活かしたまちづくり」では市民と接するために運転会、常設ジオラマ製作、ワークショップ等々、赤れんが倉庫の賑わいを目指した企画をし倉庫群一帯に拡大して恒例の鉄道イベントになった。

個人的にも参加の機会を得て敬愛する鉄道に親しみがさらに膨らんだことは感慨深い。今後も倶楽部の称号が変わっても、その目的を末長く継続発展するためにも可能な限り寄与していきたい。

2. 「第1回赤煉瓦シンポジウム in 舞鶴」完全収録映像 DVD 化企画 (事務局)

「赤煉瓦倶楽部・舞鶴」、「赤煉瓦ネットワーク」結成の起点ともなった1990(h2)年11月25日開催の「第1回赤煉瓦シンポジウム in 舞鶴」のシンポジウム・交流会の一部始終を収録した VHS テープを発見し、このほど二枚組の DVD 化を企画しました。30年前に日本各地の赤煉瓦に縁のある19都市からの47名を含めた約200名と予想をこえた参加者の熱気にあふれたシンポの様子が蘇ります。参加した方、参加できなかった方、それぞれにとって保存版として価

値あるものと思いますので、ぜひご購入下さい。
つきましては、ご購入希望の方は、まず、下記要領でご予約を受け付けますのでお申込みください。
◆ 予定価格(送料込み)：2,500円/セット
(制作枚数により価格が変わります)
◆ 予約申込：同封ハガキにてお申込み下さい
◆ 申込み期限：本年4月末予定
◆ 支払い：DVD送付時に請求書を同封します。
(まとめて予約すると送料が割安となります)

3. 退任挨拶 (馬場英男)

NPO法人会員及び特別会員の皆様には永らくご支援・ご協力をいただき誠にありがとうございました。
本年4月からは新たな組織として一步を踏み出しますが、今後も赤煉瓦をキーワードに全国の皆様と楽しみながら息長く活動してまいりたいと考えています。私事ですが、今日を持って理事長職を辞任させていただきます。皆様に心からの感謝を申し上げ退任のご挨拶とさせていただきます。今後ともよろしく願いいたします。

以下、今後の「赤煉瓦倶楽部舞鶴」の会費等予定です。

会員資格： 会費納入者(特別会員は除く)。 年会費(個人1,000円、法人5,000円)。
会費・寄付金等 振込先：
ゆうちょ銀行 四四八店(ヨンヨンハチ店) 普通 3679505 □座名義 アカレンガクラブマイツル

注) 継続会員の皆様には、次回の会報時に会費請求させていただきますので、よろしくお願い致します。